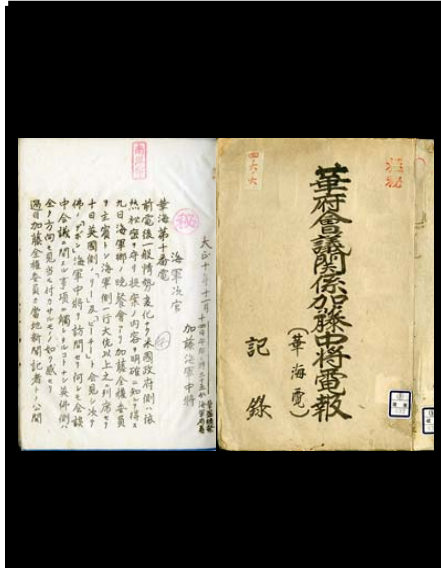


平成 23 年度は、歴代陸海軍大臣の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

《 加藤 友三郎 1861～1923年 》

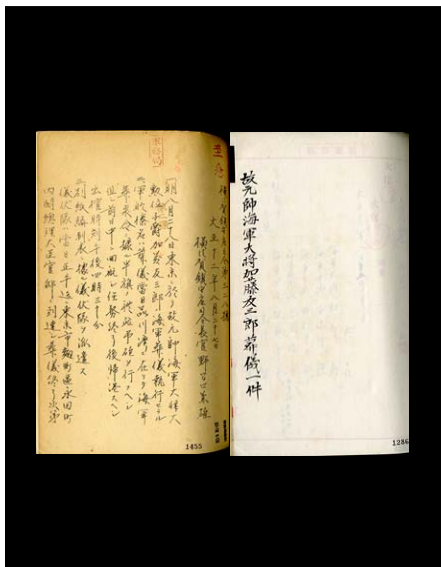
—海軍大臣としてワシントン会議全権の任を果たし、首相の職に斃れた提督—



華府會議關係加藤中將電報（華海電）

（登録番号：㊟—榎本—837）

加藤友三郎元帥は、明治 16 年 11 月、海軍少尉に任官、その後、連合艦隊参謀長、海軍次官、呉鎮守府司令長官、第 1 艦隊司令長官、海軍大臣、内閣総理大臣等の要職を歴任しました。この史料は海軍大臣であった同元帥（当時中将）が、大正 10 年 11 月から同 11 年 2 月までの間、米国で行われたワシントン会議に全権委員として参加した際の「華府會議關係加藤中將電報（華海電）」です。会議開会直前の状況を伝えた海軍次官宛電報「華府第十番電」には「米國政府側ハ依然秘密ヲ守リ提案ノ内容ヲ明確ニ知ルヲ得ス」とあるなど、海軍の軍備制限を中心に審議された同会議の舞台裏を知ることができます。



故元帥海軍大将加藤友三郎葬儀一件

（登録番号：海軍省—公文備考—T12—12—2895）

加藤元帥は、大正 12 年 8 月 25 日、内閣総理大臣在任中に逝去しました。この史料は同年 8 月 28 日に行われた同元帥の海軍葬儀に関する「故元帥海軍大将加藤友三郎葬儀一件」です。葬儀前日に発令された「横須賀鎮守府日令第三二八號」には「明八月二十八日東京ニ於テ故元帥海軍大将大勲位子爵加藤友三郎ノ海軍葬儀執行セラル」とあり、葬儀当日の軍艦榛名による半旗の礼並びに弔砲の実施、総理大臣官邸等への儀仗隊及び軍楽隊の派遣が命じられています。葬儀は海軍葬喪令に基づき実施され、命により品川湾に回航された榛名は出棺の時刻に合わせて 17 発の弔砲を発射（1 分間隔）しました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）  
外線：03-3713-5912  
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp  
※ 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp